

(1) 市長あいさつ

皆さんこんにちは。北九州市長の武内和久でございます。今日はお越しくださしましてありがとうございます。

このミライ・トークは、7つの区で9回開催するというので、今日がいよいよ最終日となります。これまで本当に各区いろいろなご意見をいただき、議論もしてまいりましたが、やはりいろいろな意見があって、これは賛成も反対もなく、正しいも間違っているもなく、皆さんがそれぞれ思っていること、視点でお話しいただくことが大事だと思います。また今日お集まりの皆さんが、その中から、正しい、間違っているではなく、いろいろな気づきを得ていただく、あるいはまちのことを考えていただくきっかけにしていきたいと思います。

足元の課題はいろいろとあります。経済もあるいは若い人たちをどう取り戻していくのか、また子どもたちをどう育てていくのか、いろいろと課題はありますが、それらを解決するだけではなく、未来に向かってこのまちをどう作っていくのか、できない理由ではなくどうやったらできるのか、ということを中心にみんなで考える、未来志向の会にしたいと思っていますので、ぜひ皆さん、ご参加いただいた方、ご覧いただいた方、気づきのある会にしていきましょう。

八幡西区は巨大な区でいろいろな要素をたくさんもっています。様々なポテンシャル、ないものを探すのではなく、あるものを磨いていく、そういったスタンスで本日は開催できればと思いますので、有意義な時間となりますよう、楽しんでいただければと思います。

(2) パネルディスカッション

進行（丸川）：

それではただいまより、パネルディスカッションを始めて参りたいと思います。パネリストの皆様を順番にご紹介してまいります。

まずお一人目、安藤 進一様です。協同組合折尾商連 理事長でいらっしゃいます。35年ぶりに東京からふるさと北九州に活動拠点を移し、出版会社、行政書士事務所を開設されています。商連、学生、自治会、企業等、地域が一体となった様々なまちづくり事業に携わっていらっしゃいます。よろしくお祈いします。

安藤氏：

折尾商連の安藤と申します。本業では折尾の広報誌や映画のガイドブックを作っているのですが、今日は地域の利益代表という形でお話しさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈いします。

進行（丸川）：

よろしくお祈いします。次に、お二方目は、権頭 喜美恵様です。社会福祉法人もやい聖友会 理事長を務めていらっしゃいます。福祉施設を拠点とし、多世代共生社会に向けた様々な事業を展開していらっしゃいます。高齢者施設での「赤ちゃん職員」採用や、認知症高齢者がパーソナリティを務めるラジオ放送等、メディアでも注目多数です。黒崎商店街で多世代交流カフェを運営されています。よろしくお祈いします。

権頭氏：

本日はよろしくお祈いいたします。

進行（丸川）：

続いて、お三方目は、武智 充様です。副都心黒崎開発推進会議 幹事長を務めていらっしゃいます。黒崎の活性化に向けた団体活動の傍ら、「チーム松並木」の代表として、「曲里の松並木」を住民の憩いの場や観光名所とする活動に取り組まれています。地域コミュニティ FM「AIR STATION HIBIKI(株)」代表でもいらっしゃいます。よろしくお願いします。

武智氏：

武智充と申します。よろしくお願いいたします。

進行（丸川）：

最後に、船川 大十様です。木屋瀬青年会 会長でいらっしゃいます。木屋瀬祇園、宿場踊り等、年間を通じて開催される様々な地域の伝統文化に携わりながら、小学校での講演、子ども達への講習を開催する等、地域の歴史や伝統を未来に繋げていく橋渡し役として活動をされています。

船川氏：

皆さんこんにちは。そうそうたるメンバーの中、私をお呼びいただきましてありがとうございます。私の場合はぐっとハードルを下げていただいて、まちの若者が何か言っているな、くらいの感じでお聞きいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

進行（丸川）：

それではここから、パネリストの皆様からお話を伺っていきますが、パネルディスカッションに入る前に区長からコメントをいただきます。よろしくお願いします。

神野区長：

まずは暑い中ご来場いただきましたたくさんの皆様に関心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

先ほどの若手職員からのプレゼンにありましたように、市民の 27%が暮らす八幡西区です。ここがさらに皆様にもっと住みたいと思っていただけるまちになるように、また周辺地域からもっと人を惹きつけられる、そのようなまちになることが北九州市全体に大きな効果を及ぼすと考えておりますので、頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

今日は、八幡西区に在住、在勤、通学、様々な形で関わっていただいている皆様に来ていただいております。皆様と一緒に少しでも共通して八幡西区の明るい将来を考える、そんな時間がもてればと思っております。私の方で皆さまと一緒に考えるための材料を整理して参りましたので、スクリーンをご覧くださいませ。

八幡西区の強みと弱みについて、横軸がプラス要因、マイナス要因、縦軸の上が内部の環境によるもの、下が外部環境によるもの、というような形で整理しています。今日はあまり難しい話はせず簡単に説明したいと思います。

プラス要因、強みですが、これは先ほど若手職員のプレゼンにありました通りですので省きますが、区内の話が多かったのですが、私どもはやはり視点として区内だけではなく、広い後背圏で 2 市 4 町だけではなく福岡まで含めていろいろなところから人を呼び込むことを考えていく、そのための交通インフラも充実している、というのが他の区にもない強みだと考えております。

また弱みについては、レジャー機能、特に買回り品のショッピングや娯楽機能などが八幡西区は少し弱いのではないかと考えています。また土地もなかなか少ないのですが、その中でも空き店舗、平面駐

車場、企業の遊休地など、そのような低未利用地が区内にあるということです。また八幡西区は特に3次産業の従事者が少ないというデータもございます。また強みのところで職員が紹介したように、観光や歴史文化はあるのですが、上手く観光資源として活かされていないことも弱みとして捉えています。また副都心としての黒崎の誘引力について、昔を知る我々世代から見るとかなり落ちているなど感じています。そして、先ほど今池が福岡県でベッドタウンとして2年連続2位という評価が出ていましたが、まちの知名度について、薬院が1位でしたが、薬院は知名度があるけれど、今池と福岡で聞いてどれだけの人が知っているのかという知名度不足が弱みではないかと考えています。

左にある機会については、外部環境でプラスの要因で影響を与える要素を整理しています。皆様ご存じの通り、折尾、陣原の各駅前で大規模開発を現在実施しております。黒崎におきましても、民間主導でマンション需要がいま非常に旺盛で人口が増えてきている状況です。2点目、今日お越しの4名のパネリストの皆様もそうですが、まちづくり団体の活動が折尾地区を中心に特に学生さんの活動が活発なのが西区の特徴でもあります。また、黒崎バイパスの開通効果で渋滞の緩和が進んでいますが、この後また黒崎西ランプが開通しまして、さらなる良い効果が期待できるのではないかと考えております。また、企業による社有地等活用とありますが、先ほど弱みで低未利用地の話をしましたが、例えば三菱ケミカルさんや大英産業さんなどの企業が自社のもつ保有地を活かして街中のために何かしようじゃないかという動きが出ております。また、八幡IC周辺は物流のポテンシャルが大変高い地域ですが、金剛エリアでまた開発の動きが民間から始まってきたということです。

最後に脅威についてですが、外部環境でマイナス影響を及ぼすであろう要素を整理しています。全国的な傾向ですが、人口減少や高齢化が進んでいるということ、また大型商業施設ですが、昔はなかった直方や宗像、遠賀などに大規模商業施設が立ち並ぶようになってきました。また、消費者行動の変化というところで、代表的なところはネットショッピングですが、先ほどの大規模商業施設の周りの状況ですとか、ネットショッピングの台頭などを考えますと、例えば八幡西区の中で大規模商業施設で大きな盛り返しを狙うというのは、なかなか昔の様な形では難しいのではないかと思います。また、人間関係についてみると、コロナを契機に希薄化が進み、例えば自治体の加入率も減少傾向です。また、地域行事の担い手、お祭りなどの担い手で、特に高齢化が目立つというのが課題ということで、整理させていただきました。以上が私の整理となりますが、これにこだわらず皆様方から広いご意見をいただければと思います。

進行（丸川）：

区長ありがとうございました。それではこれからパネラーの皆さんにお話を伺っていきますが、遠くからは少し見えづらいかもしれないですが、後ろにホワイトボードを準備しておりまして、パネラーの方が話した内容を書いていこうかなと考えております。ぜひ終わった後に写真など撮って帰っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それではパネルディスカッションに入ってまいりたいと思います。いま、区長から八幡西区のプラス要因、マイナス要因、また内部、外部の環境というように整理していただきましたが、それぞれパネリストの皆さんが考える区の課題や区の強みについて特に重要だと思うもの、またその理由についてお伺いしていきたいです。まずは安藤様からよろしく願いします。

安藤氏：

区長から大変わかりやすい分析をありがとうございます。いろいろな切り口からの課題が出ていますが、私がここで話したいのは、この一つ一つの各論ということではなく、まず八幡西区というところが、北九州7区の中でも特に課題を一つに絞りがつらい、核心を追求しづらいついて感じています。というのは、背景的

な話として、八幡西区を構成する黒崎、折尾、木屋瀬など、これらそれぞれが元々は独自に歴史を持つ独立した自治体だったということが一つあります。もう一つは、黒崎の突出した市街地の機能低下が指摘されています。この2つの背景から、都市の機能が区全体に分散の傾向にあるというのが現状だと思います。それならそれで、今後の八幡西区の在り方を考える時に、むしろ一つの核心に絞るのではなくて、例えば黒崎、折尾、木屋瀬のそれぞれ3つの核というのを特徴ある機能を集約させて、これら3つをつないでいわゆるクラスター型、機能分担型、役割分担型のまちづくりを発想していく、そのような考え方が求められている時代に来ているのではないかと考えています。具体的にその3つの核に対してどんな機能を求めていくかについては、次の発言とさせていただきます。

進行（丸川）：

ありがとうございます。八幡西区は大きいというもあり、歴史的な経緯もあって課題が絞りづらいという中で、一つにするのではなく、3つの核で分担をするというのではないかと考えています。その内容についてぜひお聞かせください。

安藤氏：

はい、まずは3つの核と言いましたが、折尾については皆さんもうご存じだと思います。課題は明確で学園都市というコンセプトですが、それに向かって今まさに再開発が進んでいる、この流れをブレさせる必要はないと思います。一方で木屋瀬ですが、歴史街道のまちづくりが注目されています。これに加えて、人の交流、文化の交流、そしてもうひとつモノ、物流というのが今後注目されるだろうと考えています。北九州は空港中心に国際物流の拠点を作ろうとしています、それを内陸から補完していく、木屋瀬には八幡インターという切り札があります。この点に着目した木屋瀬の可能性は非常に大きいと思います。もう一つ黒崎ですが、私がこちらに帰ってきた時に黒崎というところは平日の人の少なさが非常に目立ちました。そういった中で人がたくさんいる場所が実は2か所あってそれは区役所と年金事務所でした。その間には岡田宮があり、商店街が広がっています。この立地環境を見ると、私は東京の巣鴨を連想しました。そこでですが、北九州の今後のまちづくりを考える時に、若者が集まる、若者に魅力があるという言葉は必ず出てきますが、それに反して高齢者にとって優しい、高齢者が楽しめる、高齢者に魅力的なという議論がなかなか出てきませんが、むしろこちらの方が私は緊急だと思っています。そういったことを先進的なパイロット都市として実現する上で、黒崎は条件が整っているのではないかと、というのが私からの提案です。このように高齢者の先進的モデル、学園都市、街道のまち、3つの核が連携することで、あらゆる世代のマーケットが網羅できる、その利益を享受できるのがこの三角形の重点に当たる、三ヶ森や永犬丸、小嶺といったベッドタウンであろうというストーリーこそが、八幡西区の可能性ではないかと私は考えています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。まとめると、折尾と木屋瀬と黒崎という3つの拠点が、それぞれ学園都市や物流の拠点、そして黒崎は区役所や商店街などがあり巣鴨に似ているのではないかと、高齢者に魅力的なまちのパイロット都市のようになれるのではないかと、3つに分けてお話をいただきました。またお伺いしていきたいです。ありがとうございました。それでは権頭さまから八幡西区の課題や魅力についてお話しください。

権頭氏：

八幡西区の強み、課題ですが、いま区長と職員の方からお話ございまして、非常にたくさんある中

から、私自身は医療や福祉、そして人の生活に関わるお仕事をさせていただいておりますので、この仕事や活動を通して感じていることを4つに絞ってみました。

一つ目は、郷土愛が強く、まちをどうにかしないといけないという思いが強い方が八幡西区にはとても多いということです。今日登壇されているパネリストの方もそうですが、こういった思いは思いだけではなく、活動が混合していきやすいということにつながります。口で言うだけ、考える事、は簡単なことですが、それを活動していく、実現させようとするのは非常に素晴らしいことです。そして二つ目は、医療機関や介護や福祉の事業所がとても充実しているということです。人口比からすると病院、診療所、介護施設など、他の地域とは比にならないくらい充実していると思います。私どもの運営している、もやい聖友会もそうですが、多世代交流に積極的に取り組んでおりまして、他の法人さん等福祉施設でも同じようなこども食堂やマルシェ、認知症の啓発運動など活発に行われておりまして、今後八幡西区から北九州モデルとなっていくような勢いもあるように感じています。そして三つ目に安川電機をはじめとした世界的企業がたくさんあるということです。いまは、社会福祉法人や医療福祉関係の法人などが社会貢献活動を多くさせていただいておりますが、今後は一般企業も社会貢献が求められる時代となってきております。実際に、安川電機さんや大英産業さんほか多くの企業で、営利目的ではない社会課題解決に向けた活動をされています。ほかに大学や高校などもあるのが大きな八幡西区の特徴ではないでしょうか。そして4つ目は、黒崎駅の駅前問題で、メイトなどがよく取り上げられますが、現在どん底感にある、暗い気持ちにあるという方も多いかと思いますが、どん底感にあるというのは逆に大きな強みだと私は思っております。どん底にあるということは、今後は上に向かうしか方向はありませんので、折尾も活性化しており、陣原駅も変わってきており、次は黒崎かというような期待感、ワクワク感はありません。そして最後に課題ですが、人口減少、少子高齢化の問題です。これは八幡西区に限った問題ではありませんが、特に少子化は大きな問題で、働く方、活動する方、若者が減ってきている中で、地域のお世話をしている方たちの高齢化も進み、活動する方が減っていているというのは大きな問題、課題であると思っております。

進行（丸川）：

ありがとうございます。魅力について4点あげていただきました。郷土愛が強いということ、医療福祉事業所が多いということ、世界的規模の企業があるということ、また黒崎駅前がどん底だというのが伸びしろしかないという意味で魅力であるということと捉えていただいています。課題は人口減少、高齢化ということなんですが、お話の中で、福祉事業所が多い事や世界規模の企業があるといったところで、北九州モデルというキーワードがでてきたと思いますが、具体的にどういったものをイメージされているのか、お話しいただけますか。

権頭氏：

いま、私どもの法人でも取り組んでおりますが、普通は特別養護老人ホームには高齢者しか住んでいない、乳児院は赤ちゃんしかいない、障がい者施設は障がい者しかいないといったように、縦割りの管理のもと施設というのは非常に偏った世代や状況の方しかいない、他の社会から隔離されたような状態になっております。しかしこういった部分を他の世代の人たちと、日常的に多世代交流できるようにすることで、うちでは「赤ちゃん職員の採用」などをやっております。赤ちゃん職員といっても赤ちゃんが施設の中を公園のようにママと一緒に散歩するだけですが、その赤ちゃんと出会った高齢者の方はたちまち皆さん笑顔になりますし、ママたち同士の交流も生まれ、赤ちゃんもいろんな方からかわいいと声をかけられることは、今後成長していく中で、コミュニケーション能力も成長していく、育まれるということで、三方よしの多世代交流が非常に幸福度の高いまちづくりに寄与するのではないかと考えております。このような

ことが福祉施設を通して広がって行けばいいなと思う、それが北九州モデルの 1 つだと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。縦割りではなく、日常的な交流の中から幸福感というものが生れてくるのではないか、それが北九州の良い所であり、らしさにつながるのではないか、というお話だったかと思います。また後でお話を伺いたいと思います。それではお三方目、武智様から課題や魅力についてお話しください。

武智氏：

八幡西区の強みについて、北九州市の強みと言ってもいいと思いますが、やはり北九州市は工業で、洞海湾があって、豊富な石炭が取れる、ということで、企業にとって魅力があるまちで開けてきた歴史があると思います。それを強みとして、大きな企業がたくさん来て、それに伴って働く人がたくさん増えて、周辺に住みだして、黒崎が交通の結節地点になっていったと思います。いまでも黒崎もしくは八幡西区は、人口もそこそこ横ばいで、工業としての機能がその実力が時代の流れによって少なくなってきたてはいますが、交通の結節地点として、また住みやすさという意味で、教育や介護、医療などが揃っているわけです。工業都市として食べられなくなった分を、いまから交通の結節地点として、住環境がいいということがあるうちに、では何を増やしながらか生きていくのか、というところが課題なのではないかと思っています。工業はもういいということではなく、もちろん工業も生かしながらか、交通の利便性がある、住むという意味ではまだ需要があるうちに、工業都市以外でも何か来たくなるまち、八幡西区自体の人口が増えて発展する、というようなことを考えていかなくてはならない、ということが課題になっていると思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。歴史を踏まえて元々は工業都市であり、人口が急速に増えて今は減ったけれど、その遺産として、住みやすさや教育、交通などのインフラは整っているけれど、それがあつうちに、工業都市の機能は残しつつそれ以外で何か、というところで、例えば武智さんが考えるそれ以外の何かはどういうものがあるでしょうか。

武智氏：

工業に関しては、素晴らしい工業の歴史がありまして、北九州はいまグリーンエネルギーや水素などいろいろと頑張つて取り組んでいます。グリーンエネルギーは 24 時間ずっと電気を発電しますがそれを貯める術がなくて、リチウムイオン電池の限界があるので、水素、アンモニアに変えてという形で取り組んでいます。日本はエネルギーがない国ですので、エネルギーが一番高い時に、安いエネルギーで仕事ができますということで北九州に工業を誘致していくようなことをやっていくということです。

そして、住環境としては、いまこれだけ交通の利便性がよくて人も住んでいる状況で、学校も医療もありますので、やはり子育てや子どもを産みやすいという部分をもつと高めていく必要があると思います。また黒崎の商店街でいうと、いま周りには黒崎の外れたところにも商業施設があり、直方にも若松にも、そして東田にもあります。物販としては Amazon もあり、他のところに行けば、買う機能はありますので、それ以外のことで、やはり子どもを育てられる、そして高齢者も子どもと一緒に生活できる、というような他がやれていないことを商店街でやればいいのかと思います。

また、いままで工業都市で活用してきた洞海湾を活用して、例えば黒崎から旧古河工業ビル周辺をお洒落なまちにしていく計画の若松や、アウトレットのある東田を結ぶ。また折尾は堀川もありますが、以前は堀川から若松まで船が出ていました。そのように、ホバークラフトや高速船などを使った海上交通で東田と連携したり、下関の唐戸と連携したり、鐘崎と連携する。要は北九州だけではなく洞海湾を活用して新たな交通網を作るということです。例えば北九州空港から高速船に乗つて黒

崎や若松に帰ってきたりしてもいいと思います。エコタウンの方と行き来してもいいと思います。北九州は東西に長く、南北にも長い土地で、福岡市よりも面積が広く、7つの区に縦横にわかれているため、区の交流が行き交うように活発になっていません。そこで、洞海湾を使うことで活発にすることができれば、福岡と違うほかの自治体と違うような特色で北九州に来てもらうことができるのではないのでしょうか。洞海湾の中にも島がたくさんあって、そこでグランピングをしたり釣りをしたり、東京や大阪にはない自然が楽しめるということを強みにして、こちらに住んでいただくようなことができればと思います。

また博多のベッドタウンとしての価値もあると思います。そして、いまは授業にもなっていますが、キッズダンスについても聖地のようにして、アメリカからヒップホップの有名な講師を招くようなこともやっていけたらと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。工業都市以外で何かというところでお話に出てきたのが、クリーンエネルギーのお話と、子育てや子どもを産みやすいというところ。商店街の活用や高齢者と一緒という点については、安藤さんや権頭さんのお話とつながるところがあるのではないかと思います。最後に力説されていたのが、洞海湾を活用してはどうかというところで、東西南北あるけれども交通に課題があって、そこに洞海湾が活用できるのではないかということでした。

武智氏：

あとは長崎街道を活かした観光事業ができればいいなと思っています。

進行（丸川）：

なるほどそちらも入れておきます。ありがとうございました。それでは、船川様お待たせしました。八幡西区の魅力と課題についてお願いいたします。

船川氏：

私は開発やビジネス的なことは一切わかりませんので、木屋瀬地域を中心に活動させていただいている、歴史文化の保存継承を通じて感じたこととお話しさせていただきます。やはり八幡地区にはお祭りや歴史的な文化産業などがたくさん残されていますので、そのあたりは観光的にも魅力的な部分だと思いますし、お祭りなどのイベントがあるだけで、元気が湧いてくるというか、活発に活動できているという実感ができることも魅力ではないかと思います。

それに対して課題としては、やはり各々の祭りなどのイベントに参加される方が年々減少しているという点です。若い世代が受け継いでいない現状は多々あると感じています。また人間関係についても、コロナの影響もありますが、昭和の時代は隣近所で、身内じゃなくても話しかけるような関係性でしたが、今は隣近所の方でも全くコミュニケーションをとらないという方も増えていると思います。そのような中で、一つの地域の中でいろいろな世代間交流などができればいいのではないかと感じています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。魅力としては、いろいろ関わっていらっしゃるお祭りや文化的なものを観光に活かせるのではないかということと、その一方で課題としては人口減少に伴い、せっかく素敵な文化があるけれど、それを引き継いでいく、受け継いでいくことが難しいというお話で、地域的なコミュニケーションが希薄になっていくことについてもコロナもあってどうしていくべきなのか、というお話だったかと思います。おそらく、

どの区でも出てきている話ではありますが、文化を伝えていくための担い手について、課題として担い手が少ないというのはありますが、試行錯誤されている中で何か感じていらっしゃるのではないかと思いますので、ぜひそのあたりについてお話しいただけますでしょうか。

船川氏：

実際に木屋瀬地域を拠点とした活動をさせていただいていますが、その中で重要だと感じているのは、自分達よりも上の世代の方との交流、また自分達よりも下の世代の方との交流、また同世代との交流で、縦にも横にも交流を図っていくことが非常に大事だと思います。私たちも上の方々の意見をお聞きしながら、行事などをお手伝いさせていただくのですが、やはり上の世代の方々が経験してきたこと、知識やノウハウなど、それは我々若い世代にはわからないことなので、そういったものを教えてもらいながら、我々世代でなければ生まれない新しいアイデアを出していく。そういった互惠関係のような関係づくりが非常に大事だなと思いつつ活動をしています。

若い担い手、我々よりも下の世代の担い手については、子ども達世代に向けたイベントなどをいま活発に取り組んでいるところで、少しずつ子ども達が、自分たちのまち、木屋瀬を好きだと言ってくれるようになってきています。そのような子ども達が自分のまちを好きだと答えられるような仕組みというのが、やはり今から先、どの地域でも必要なのではないかと感じております。

進行（丸川）：

ありがとうございます。とても素敵なお話でした。印象に残ったのが、互惠関係という言葉で、上の世代との交流が大事で、下の世代との交流も大事ということでしたが、上の世代が持っている経験やノウハウを今に生かしていくことも必要だし、下の世代、若い世代が持っているアイデアを取り込んでいくことも、上の世代の人たちにとっては恵みであって互惠である、お互いに恵みがあるというお話で、そのような関係ができてくると、はじめにあった文化を次の世代に繋げていくということや、人口減少の中でも発展していくということにつながっていくというようなお話だったかと思えます。

続いて次の話題に入っていきたいと思います。課題や魅力のお話がありましたが、今日は未来のビジョンについて考えていく会ですので、将来像についてお話していきたいと思います。八幡西区の将来像とそれをどう実現していくのかについて、安藤様から順番にお話しいただきます。

安藤氏：

先ほどほとんどお話ししてまいりましたが、後ほど披露するキャッチコピーにも書いていることですが、「クラスター型機能分担」をきっちり明確に打ち出していくこと。そこには地域の合意形成が必要で、折尾の例で言うと、地域の意思決定については「おりお未来 21 協議会」が担っています。我々、折尾商連がその事務局をさせてもらっているのですが、住民の声をしっかりと一つにまとめて行政と交渉し、一緒に取り組んでいく、このような流れは他の地域でも当然あるべき姿だろうと思います。そういったモデルというのを、今後例えば、木屋瀬地域や黒崎など、またその中心に位置する三ヶ森界限などでそれぞれに行政と住民の間での連携の在り方を模索していく、それがそれぞれの地域における役割分担、クラスター型のまちづくりにつながっていく姿ではないかと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。3つの核で分担をするというお話なのですが、その中で合意形成が大事であるということで、住民の声をまとめ自治体も一緒に取り組んで行くのが必要というお話でしたが、3つに分担することでそれが実現できるということもあるのでしょうか。

安藤氏：

やはり歴史的背景で、生活圈、商圈特性、そして交通体系の 3 つの要素から、いまの八幡西区の姿は 3 つの極に分かれている傾向がみられると実感しています。そういったそれぞれの特徴を踏まえて、地元住民、事業者、行政も含めてそれぞれの地域で連携を強化していくことが重要なんだろうと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。続いて、先ほど医療福祉の観点から魅力も課題もあげていただき、幸福感といった話もありましたが、権頭様が考える将来像をお聞かせください。

権頭：

福祉などの視点からになりますが、我々目指すことはやはり誰もが幸せに生きるためにとか、ウェルビーイングの視点になります。それを念頭に 3 つの未来像、将来像をお伝えしたいと思います。

一つ目が、人と人がつながることのできるまちです。皆様の考える幸せとは何でしょうか。いままでは経済の成長、拡大が目標で、経済至上主義の中で生まれたのは幸福感ではなく、どちらかという地域の人と人とのつながり、家族のつながりが希薄化し、孤立という問題を生みだしております。これがいま、社会的課題をたくさん生みだしていますが、この孤立という病には、人とのつながりという社会的処方があると言われていています。人とつながるということは、多世代の人が身近にいて、お互いにみんなが幸福な気持ちになれるということで、とても大切なことだと感じております。今年度は国でも孤独孤立対策推進法が制定され、孤独孤立対策担当大臣なるものが置かれておりますが、私はぜひ、八幡西区におきましても、全国に先駆けて、多世代様々な人が、人と人がつながれるようなまち、仕掛けづくりを行い、そんなまちになってほしいと思っております。

二つ目も福祉についてとなりますが、いま医療や福祉に携わる人たちは社会貢献事業を行っていますが、医療や福祉だけではなく地域の皆様、そして企業の方、そして行政と様々なところが連携して、我がこと、丸ごとの地域共生社会と言われてる様に、おせっかい力、地域力、人がつながりを発揮して自分たちで何とかやっていけるような力のあるまちづくりを行っていければいいなと思っております。こうした地域共生社会の北九州モデルを作って、全国に発信できるまちになってほしいと思います。

最後に三つ目ですが、人口が増えることを前提として現在の社会保障制度は作られていますが、少子化の中で働く人がどんどん減っている中、いま限界ではないかと感じている人も多いのではないかと思います。若い人たちが子育てをしながら一生懸命働いている姿を見ていると、非常に辛い気持ちになることがあります。一生懸命働く中、その収入からたくさんの社会保険や年金などが引かれて、その額もどんどん増えていっているような状況です。非常に申し訳ないような気持ちになることも多いですが、この若い人たちにぜひ、頑張りを応援できるような制度を作っていただきたいと思っております。むしろお給料も若い人により多く出してあげたいような気持ちにさえなります。北九州はいま、非常に高齢者に対して充実したサービスや制度がありますが、それと同じように赤ちゃんを育てる、子育て世代にもおむつやミルクの給付や家族育児慰労金、また公共施設の無償化、公共の乗り物についてもママの無償化など、高齢者に対してと同様に充実していただき、結婚したいまち、子どもを産み育てたいまちを実現していただきたいなと思います。これが本当の意味での、少子化対策になるのではないかと考えています。いつも明るい未来が、先が見えるようなまちとなり、まちを支える地域の人、地域を支える家族、さらに未来を支える子どもたちのことを考えていけるようなまちであってほしいです。

進行（丸川）：

ありがとうございます。3つあげていただきましたが、人と人がつながるまちであってほしいということ、地域共生という話で、自分たちでやれるまちになってほしいということ、そして3番目に、若い人の頑張りや応援できるまちということで、子育てなどを応援したいということでした。高齢者と同様にというご発言がありました。安藤さんから高齢者にとって魅力的なまちのパイロット都市になるというようなお話もあって、若い世代も高齢者も同じにということがすごくいいなと思います。どちらかを選ぶのはなかなか難しい話かと思いますが、みんなが生きていく、みんなが交流しながら生きていくためには、そのような視点も必要なのではないかと感じました。

いまのご説明で十分理解できましたので、次の方にお聞きしたいと思います。武智様から将来像についてお話しください。

武智氏：

特に課題の部分となりますが、黒崎はいま他の商業施設がやってないことをやっていくべきではないかと考えています。いま子どもを増やすことは北九州だけではなく、国としても大切なことになっていて、若い人はなかなかお金がないということで、子どもを産むことを躊躇されているというのものもあるかと思っています。自分の親世代もまだ共働きで働いていて子育てを一人でしなくてはいけないという状況もあるかと思っています。ですから、高齢者も一緒になって、若い子育て世代を助けられるようなことが商店街でもできればと思います。

いまは黒崎駅の横のメイトもあのような状態になっていますが、せめて1階のメイトの敷地だけでも人が行き交うようにしなければ、東の地域との交流が断絶していますので、まずは通路だけでも復活できるようにしていかなければいけないと思っています。

また商店街の中に、若い世代が楽しめるようなバスケットゴールやフットサルコートをつくり、もしくはいま三角公園はありますが、もっと子育て世代がゆっくりできるような芝生の公園が黒崎商店街に隣接して必要ではないかなと思います。

このほか、高齢者の買い物の問題などもありますが、これはまた別の機会にと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。他の商業施設がやっていないことをということで、商店街も含めて子育てをやっていかなければいけないということで、それを高齢者が助けるというお話と、つながりを作っていくということで、商業施設のメイトのところで断絶があるので、そこをつないでいく必要があるのではないかというお話だったかと思っています。将来像の話ですので、もう少し先の話もあるといいかなと思いますがいかがでしょうか。

武智氏：

長崎街道をテーマに黒崎から始めようと持っていますが、門司往還や小倉の常盤橋も起点となっていて、北九州の大半を長崎街道が通っていますので、北九州が一致してやれるような観光事業になり得るのではないかと考えています。まず私は、曲里の松並木から黒崎を和をテーマにした街にすることを目的に、シンボリックな場所として松並木を福岡で言うような大濠公園のような場所にして、能楽堂を置いたり、和の雑貨を置いたりしたいと思います。また、できれば開園時間を設けた公園にするべきで、いつでも行けるとその分ゴミなども多くなってしまうので、綺麗な状態を維持するためにも人が常駐して時間が来たら閉まるような、また夜も女性が安心して散歩やジョギングができるような、大濠公園のような場所にしたいなと思っています。そのあとに、黒崎の商店街の中を、宿場町の中を、木屋瀬のように和の整備をして落語の寄席があったり、和のアンティークの市があったり、和をテーマにした黒崎の街並み、ま

ちづくりを考えています。また黒崎以外で言えば、折尾は学生が多いので、学校を誘致するなり、若者が楽しめるようなまちで走るべきだと思います。

木屋瀬は長崎街道ということで、観光事業で盛り上げていきたいですが、特急が停まる黒崎駅から木屋瀬まで筑鉄が通っていますので、福岡のベッドタウンという役割もさらに充実させていくべきではないかと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。長期的な視点で言うと、長崎街道という歴史的なものを使って、北九州が全体として一致して観光の地域を作っていく必要があるのではないか、管理をしていく必要があるのではないかというお話がメインだったかなと思います。ありがとうございました。それでは、お待たせしました、船川様から将来像についてお聞かせください。

船川氏：

私どもはたまに、木屋瀬には若い人がいていいねというお声をいただくのですが、正直なところ現状は木屋瀬地域のことしか活動ができていません。今日もお誘いいただきましたが、八幡西区という視点を持っているかという、ちょっとまだ持てておらず、一つの地域、一つのエリアでしかまだ物事は考えられていない現状があります。それはなぜかという、木屋瀬地域のこと以外を知らないからです。八幡西区でもまず大きく4つの地区に分けられていて、その南地区に木屋瀬はありますが、南地区のほかの地域のことさえ知らない現状があります。ということは、ほかの地域の方々との連携が取れておらず、交流が取れていない、それが更に大きくなると、八幡西区全体の交流があまり若い世代で取れていない現状があるのではないかと思います。今後はやはり、自分の地域以外のお祭りやイベント、いろいろな催し物に参加させてもらったり、それぞれの課題もおありだと思いますので、意見などもお聞きしながら、まず八幡西区のことを知る、またいろんな人と交流をするということが、大切ではないかと思っています。八幡西区を盛り上げていこうとしたときに、エリアを横断して八幡西区が一体となることができるような新しいイベントや、既存のイベントでもそうですが、連携を取ることで新しいものができてくるのではないかと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。とても大事な視点をいただいたと思います。自分の活動しているエリアは知っているけれど、地域の視点や他の地域を知るところが自分たちにはできていないのではないか。その中で他の地域と連携したり、若い世代が交流をすることが将来の八幡西区の発展につながるのではないかというお話だったかと思います。そこから生まれる新しいものを取り入れていくことが大事だということでした。

(3) 質疑

進行（丸川）：

それでは、会場の皆様からアンケートを回答いただきましたので、時間の許す可能な限りお話を伺っていきたくと思います。回答に至った思いや意図などをご発言いただければと思います。

まずは東筑高校の高校生からで、「人口が増加し、子どもや大人、高齢者の方が全員幸せに暮らせるまちになってほしい」とお書きいただいた方、いらっしゃいますでしょうか。どんな社会になってほしいとお考えですか。

参加者 A :

八幡西区は福岡市などと比べると人口が減っている印象があります。北九州市も含めてですが、八幡西区の人口は横ばいという話を先ほど聞いて、どちらかというと高齢者の割合が増えていて、子どもの人口は減っているのではないかと思います。そんな中で、行政としてはどちらかと言えば高齢者向けの政策を出すのが精いっぱい、子どもの政策を出すのが遅れている印象があります。なので、今後は政策面から見直して、すべての世代が幸せになれるまちづくりを目指してほしいなと思いますし、自分も18歳も迎えましたので、政治参加をしていきたいと思いました。

進行 (丸川) :

ありがとうございます。18歳ということで、ぜひ選挙にも行っていただきたいですね。幸福に暮らせるまちや子育てを応援しないといけないというところで、権頭さんから先ほど高齢者と同様にとお話がありましたので、いまのお話を伺った感想などありましたらお願いします。

権頭氏 :

いまのようなご意見を持っている若者に、私は最近よく会えます。危機感を感じている若者が非常に多いと思うんですが、人口減少、少子化の中で若い人たちのこのような意見が少数派なんです。ですから、何らかの形で、選挙権も拡大されましたが、難しいかもしれないですが、若者は一投票2ポイントあるなど、そのようになっていくと何か変わるのかもしれないです。そんな思いをどんどん広げていってください。お願いします。

進行 (丸川) :

ありがとうございます。もうひとつ、高校生にお話を聞いていきたいと思います。星琳高等学校の方から、「将来、八幡西区が活気あふれるまちになってほしい」と書いていただきました。おそらく活気あふれるといってもいろいろなイメージがあると思いますが、高校生のあなたが考える活気あふれるまちとはどんなイメージでしょうか。ぜひ教えてください。

参加者 B :

商店街などを見ていると、以前と比べると確実に通る人も減っているので、人が増えて、人が増えることで企業が潤ったり、お店が潤うことで、経済が回ったりするかなと思うので、活気あふれるまちにしてほしいなと思います。

進行 (丸川) :

もう少し深掘してお聞きしたいんですが、例えばどんなものやことがあれば商店街に行こうかなと思われませんか。

参加者 B :

娯楽スペースや施設があると行ってみたいなと感じます。

進行 (丸川) :

娯楽と言うともう少し広いですが、具体的にいま何かはまっているモノなどはありますか。

参加者 B :

ゲームなどにはまっています。

進行 (丸川) :

ありがとうございます。家でゲームをするのではなくて、外で戦ってみる。e スポーツなどもありますし、そういうのもあるのではないかなと思います。ありがとうございます。商店街の話もありましたので、武智さんに少しお伺いしたいのですが、若い人たちが集まる商店街になったらいいなというお話で、何かお考えのことなどはありますか。

武智氏 :

商店街もそうですが、折尾で思ったときに、学生のまちを盛り上げるのはどうしたらいいのかなと考えたときに、キッズダンスが北九州の小中学校の授業にも必須で入っていますし、大学にもヒップホップのクラブがありますので、ヒップホップを中心にして、折尾地区の各大学の交流が生まれて、折尾がヒップホップダンスのメッカになってもいいのではないかと感じたりしました。

進行 (丸川) :

ありがとうございます。今日、冒頭で子どもたちのダンスを見せていただきましたが、あのようなものが自由にできるとか、楽しくできるという風になると、若い人たちが集まってくるのかもしれないですね。ありがとうございました。続いて、年代を変えてお伺いしたいと思います。50代で八幡西区で働いていらっしゃる方から、将来像について、「公害を克服した黒崎エリアに住むには素晴らしい場所です。交通インフラも素晴らしいですし、メイトが空いてしまって残念ですが、マンションになっても人は集まると思います」と書いていただきました。福岡市は通勤圏で、黒崎駅の乗降客は減っていないということで、恐らくベッドタウンとして黒崎のポテンシャルを感じていらっしゃるのかなと思うのですが、こちらを書きくださったかはいらっしゃいますでしょうか。

参加者 C :

以前、観光業に勤めていたもので、どうしても観光に特化したところで、木屋瀬などの思い入れが強くなってしまおうのですが、私も実家が別にある関係で、以前福岡に数か月通っていたのですが、十分通うことができるんです。黒崎駅、折尾駅周辺だったら、もっと便利になりますし、これは十分行けるなと思いました。引野地区も高速バスがあんなに便利なので、もちろん地元の産業で地元で働く方が住んでもらうのはいいのですが、福岡市がもう少し飽和状態だと聞きますので、途中の宗像などあのあたりに住むよりは、北九州、八幡西区がいいのではないかと思います。メイトの再開発についてはいろいろと議論はあると思いますが、あそこにマンションができれば面白いかなと思います。

進行 (丸川) :

ありがとうございます。機能分担と言うか、インフラを活かしてというお話もあったかと思いますが、安藤さんに少しお伺いしたいと思います。3つの各クラスターで分担するというお話が先ほどありましたが、いま黒崎のポテンシャルのお話がありましたが、いかがでしょうか。

安藤氏 :

特に折尾については、福岡の通勤圏として人気が高まっていますし、再開発の真っ最中ですので、福岡の通勤圏としてのポテンシャルがこれからまたさらに価値が上がっていくのではないかと思います。ただ、

気を付けなくてはいけないのは、折尾の話になりますが、4 大学 5 高校を中心とした学生が集積する街であるということで、いま現在再開発の中、学生たちの生活の安全安心や満足という点からすると、折尾はまだまだ機能が整っていない状態だということです。今日は、東筑生の方も来ていますが、まだしばらくは通学の中で思い出やなじみを作りづらい状況にあるというのは、大変申し訳ない話なのですが、そういったことがますます充実していくように我々も一丸となって折尾のまちづくりを進めていかなくてはならないと思っています。

一方で、福岡の通勤圏という点では、他の地域も高速バスや JR も含めていろいろな交通手段が整っているエリアがありますが、一つ視点を考えていただきたいのは、まち自体がどういう機能を持つべきか、そこに暮らす経済効果というのがなければやっていけないわけです。どういう役割をそれぞれの地域が担っていくべきなのかという視点は持っていただきたいなと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。いま会場から発言いただきました方のアンケートですが、裏面までびっちり書いていただいておりますので、ぜひしっかりと読ませていただきたいと思います。どうもありがとうございます。それでは、次が最後となりそうですが、東筑高校の方からで、将来像について「より交通網を整備することで、区内外からの人の行き来の多い活気のあるまちを作れるのではないか」ということで、交通網について注目をいただきました。高校生から見て、どんな乗り物、交通網にどんなイメージがありますでしょうか。

参加者 D：

私は東筑高校に通っていますが、折尾にはたくさんバスが通っていて、とても交通の便がいいなと思っています。ですが、私の妹は八幡南高校に通っていて、帰りのバスの本数が少なく、夜遅くなってしまうことがあるそうなんです。八幡南高校の近くに、普通のバスよりも少し小さいバスが走っていると思うのですが、そのバスをもっと増やして学生がたくさん乗れるようにしたらいいのではないかと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。公共交通は需要が少なくなるから本数も少なくなるということがある一方で、やはり通学において、またあるいはまちに遊びに行く時でも、公共交通が充実すると活気があるまちになるのではないかと、というご意見だったかなと思います。

少し無理があるかもしれないですが、船川さんから、公共交通が充実したら、というご意見に対して何かありましたらお願いします。

船川氏：

全くイメージが湧かないですが、おっしゃったように、普通の既存のバスじゃなくても、コミュニティバスが困った人にピンポイントで届くような、そのような交通の利便性が上がれば、学生さんも安心でしょうし、親の立場からしてもすごく有難いかなと思いました。

進行（丸川）：

ありがとうございます。自転車の話やまたタクシーがもっと使いやすくなればという話も、お金が絡んでは来ますがあるかもしれないですね。アンケートが 100 枚以上ありまして、ご紹介があまりできませんでした。必ずすべてに目を通させていただきますので、ご協力ありがとうございました。

(4) パネリストによる「○○なまち」発表

進行（丸川）：

ここまでパネリストの皆様からたくさんのお話をいただきました。安藤様からは、課題が絞りづらいいけれども3つの核で分担するべきだというお話を、また権頭様からは、医療・福祉の視点で、人と人がつながるということと自分たちでやれることが大事であるというお話をいただきました。また、武智様からは、住みやすさや交通の利便性がある今のうちに、新しい軸として子育てのしやすさや洞海湾の活用に取り組むべきではないか、また長崎街道が観光に活かせるのではないかというお話をいただきました。そして舩川様には、文化的な遺産をどのように新しい世代につなげていくかということで、そこには互恵関係が必要であるし、他の地域を知ることが必要だというようなお話をいただきました。というわけで、今回のパネルディスカッションのまとめとして、目指す都市像として「○○なまち」ということでパネリストの皆様からご発表いただきたいと思います。まずは安藤様からお願いします。

安藤氏：

私からの提案は、冒頭から一貫して申し上げております「クラスター型のまち」ということです。3つの極、黒崎、折尾、木屋瀬、それぞれの歴史的背景を活かして、生活圈、商圈、交通体系それぞれの地域のニーズに見合ったまちづくりを3極それぞれに特徴を立てて進めていくべきだと思います。その結果、高齢者のパイロットシティ、もう一つは学園都市、さらに歴史街道のまちづくり、これは物流という機能も含めてですが、この3つの極のもとに中心にベッドタウン、居住地域の充実が置かれている、というのが、私が提案するストーリーです。

進行（丸川）：

ありがとうございました。それでは権頭様お願いします。

権頭氏：

私の目指す都市像は、いまいろいろな社会課題がある中でこれを解決していけるまちということで、先ほどから申し上げていますが、人と人のつながりがとても大切で、助け合えるまちであるということで、「誰もがつながり、助け合う、ごちゃまぜなまち」とさせていただきます。特に北九州の場合は、地域の人、医療福祉が充実していて、北九州市の制度としても充実している中で、大学も産業医科大学などがあり、医療の有資格者がどんどん輩出されていくわけです。助産師、保健師、看護師、医師などそういった方たちとも自然とつながり、まちの人達が安心して生活できるということで、普通にいろんな人がつながる、ごちゃまぜなまちを目指してほしいです。

進行（丸川）：

ありがとうございます。それでは武智様からお願いします。

武智氏：

「誰もが住みたくなる街」です。工業技術、環境技術を活かして、企業も継続してもっと増えていながら、そして子育てしやすい、また高齢者にとっても医療福祉が揃っていてそのまま住み続けたい、というような、誰もが住みたくなる街を目指していけたらと思っています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。それでは船川様お願いします。

船川氏：

私は「縦横無尽につながるまち」です。先ほどもお話しさせていただきました、上の世代、下の世代、横の世代ということで、縦にも横にも、自由自在にという意味合いも込め、縦横無尽につながるまちとしました。そのように人と人がつながれば、いろんな可能性が出てくると思いますし、また民間同士、地域同士だけではなく、行政の方ともいろいろな交流が図れて、いろんな新しいことにチャレンジしていけたら、八幡西区にさらに新しい魅力が生れてくるのではないかと思います、縦横無尽につながるまち、とさせていただきます。

進行（丸川）：

ありがとうございました。それではこれまで出た意見を踏まえまして、まず区長からまとめのコメントをお願いいたします。

神野区長：

今日は八幡西区の将来に向けた熱い思いを聞かせていただき、誠にありがとうございます。会場からも、たくさんは取り上げられませんが、貴重なご意見をいただいたと思っております。横から見る限り大変多くのアンケートが集まっておりまして、必ずすべてに目を通させていただきたいと思っております。

今日の議論について、まず安藤さんからは、区域ごとの特性を活かしたクラスター型のまちづくり、差別化戦略として、例えば黒崎を高齢者のパイロットシティにという話が非常に興味深かったと思っております。権頭さんからは、介護現場の話をしていただきまして、様々な世代と一緒に居る、三方よしの北九州モデル、非常に良いキーワードだと思えましたので、ぜひいろいろ検討させていただきたいと思っております。最後に出していただきました、誰もがつながるごちゃまぜのまち、というのも西区らしくて非常に良いと感じました。武智さんからはいろいろとご提案いただきました。交通拠点の強みを活かして、洞海湾も活用してみてもどうかというような積極的なお話と、長崎街道を活かした観光のまちづくりの提案をいただきました。最終的には、誰もが住みたくなるようなまちにしていきたいというお話でした。船川さんからは、多世代がいろいろな形でつながる、横断型のまちづくりをという話だったと思っております。安藤さんからあった、クラスター型の区域ごとの強みを活かしてまちづくりをというお話と、船川さんの拠点ごとの連携を強めて、新しい価値を作りだしていくというお話がありましたが、この2つの視点で考えていくことが非常に重要だと心に刻んだところでございます。

また会場からのご意見ですが、若い方からも、いつも私どもが行政で見ている視点とは少し違った観点から、ドキッとするようなお話もいただきました。子ども向けの政策が遅れているということで、申し訳ありません。頑張ってます。また我々はどうしても、車が使えないんじゃないかという頭があるのですが、八幡南高校の近くは確かに車が使えない人はいないけれども、通学の際に帰りのバスが少なくて困っていますという話もあって、交通機能が充実していると胸を張る限りは、いろいろなことを考えていかななくてはならないかなと思った次第です。

本日は新ビジョン策定に向けた本当に有意義な時間をいただいたと思っております。ミライ・トークは、私どもで実は最後となりますが、八幡西区は来月、北九州婦人教育研究会や、若手企業人の集まりの北青会という場でも、いろいろな方の意見を同じような内容でいただいていると思っております。様々な機会を捉えて、これからも皆様のアイデアを参考にさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくをお願いいたします。

進行（丸川）：

最後に、武内市長からも本日を振り返って一言いただければと思います。よろしくお願いします。

武内市長：

今日はパネリストの皆さん、そしてご来場の皆さん、ありがとうございます。この時間を通じて、何か気づきが得られれば幸いです。

これまで9回のミライ・トークを行ってきましたが、八幡西区は非常に熱量が高い、という印象です。皆さん一家言ある方が多い、という印象はこの区の特徴だと思いました。いい意味での摩擦があるのが、八幡西区の魅力でもあるなと改めて思いました。その上で、今日いろいろなお話を伺っていて、やはり八幡西区も様々なものがある、おもちゃ箱というか宝石箱というか、本当にいろいろなものが揃っている。人もいるし、世界的な企業もあって、交通も整っていて、祭りもあって、福岡都市圏は近い。本当にいろいろなものが揃っている中で、これをどうしていくのか、ここを考えていく必要があると感じました。

今日伺ったお話の中で、私が感覚的に感じた切り口の一つは、最強のベッドタウンになる、最強の住まいの場所となるということで、多くの世代の人が関わり合う、あるいはワンランク上の生活のクオリティを実現していく、また安らぎや安心、子育てが揃っているといった、非常に成熟した住環境を実現していくという切り口です。そしてもう一つは、やはり新しい生業をどうやって作っていくのが大事だと思います。大企業が今までありましたが、次の時代に新しい生業をどのようにして作っていくのか。その際には、ウォークアブルシティで歩いて暮らせるまちなのか、シニアが輝くプラチナタウンのようなものなのか、あるいは社会課題を解決する社会起業家がどんどん集まってくるまちなのか、いろいろな切り口があると思いますが、やはり人と人がいい意味で摩擦するという強みを活かしていかなくてははいけません。またその際には、開発頼みのまちという感覚は少し超えていく必要があるのではないかと思います。もちろん、必要な道路や建物はありますが、器がないと動かないということではなく、その中にソフトウェアをどう作っていくかという切り口は大事だと思いました。また、既成概念を壊していく、あるいは既成概念を乗り越えていく勇氣も必要だろうと思います。今日、安藤さんからは3つの核にすればいいのではないかという発想もありましたが、コンセプトを変えていくチャレンジもこれからの八幡西区に期待したいなと思います。その際には、いろいろな切り口に対してオープンであること、そして非常にクリアであること、透明性を高めていくということも大事だと思いました。

いずれにしても熱量といいますが、わが町を思う皆さんの気持ちが強い区であると改めて思いましたので、その思いを結集して、これからの区の将来像、そして北九州の将来像を皆さんと一緒にさらに磨き上げていきたいと思います。

7区9回のミライ・トークは今回でいったんピリオドとなりますが、我々市役所もしつこいので、今度は縦軸の地域別ではなく、横軸の女性や若者や業種などで意見交換をさらに開催していくこととなります。さらに、WEBで市民アンケートもスタートしておりますので、四方八方から皆さんのお考えを伺いながら、これから北九州市のビジョンづくりをさらに加速して進めていきますので、どうぞお力を貸してください。今日はありがとうございました。

進行（丸川）

ありがとうございます。以上をもちまして、ミライ・トーク in 八幡西区プログラムを終了とさせていただきます。たくさんの皆様に足をお運びいただきまして誠にありがとうございました。

以上